

現代の中東

第 41 号

2006 年 7 月

目 次

ダアワ党とシーア派宗教界の連携	山 尾 大	2
- 現代イラクにおけるイスラーム革命運動の源流 -		

現 状 分 析

貿易協定と産業発展	土 屋 一 樹	21
- ヨルダンの QIZ 協定 -		

研 究 動 向

トルコの「新しい貧困」問題	村 上 薫	37
---------------------	-------	----

研 究 資 料

シリアからイラクへの「ムジャーヒドゥーン」潜入の経路と手法	高 岡 豊	47
シリアにおけるクルド民族主義政党・政治組織(補足)	青 山 弘 之	65
- ハリーリー元首相暗殺に伴う政情変化のなかで(2005年) -		

資料紹介		95
------------	--	----

編集後記

去年(2005年)は、ハリーリー元首相暗殺だの、レバノン駐留シリア軍の完全撤退だの、とシリアとレバノンがそれなりに脚光を浴びましたが、イランの核問題がクローズアップされるようになって以降、「レバ・シリ報道」はすっかり低調になってしまいました。両国が抱えていた諸々の問題が解決したから注目されなくなったのであれば良いことなのですが、実際のところは、未解決の問題が山積する現状にメディアもアカデミアも慣れて、関心を失ってしまっただけなわけで、実に悲しい感じです。

(青山)

『現代の中東』第40号の資料紹介で取り上げた *Modern Clan Politics : The Power of "Blood" in Kazakhstan and Beyond* の著者、エドワード・シャッツ氏に同号を一部進呈しました。語学に堪能な彼は日本語もかじったことがあるそうですが、さすがにすらすら読むというわけにはいかない

らしく、「ほめ言葉しか書いていないことを祈るよ」というメールが届きました(その通りなのでご心配なく)。シャッツ氏をはじめ、海外派遣中に知り合ったアメリカの若手中央アジア研究者が、次々と立派な成果を単著にまとめています。私もがんばらなくっちゃ。(岡)

男性43歳、女性は38歳で年金がもらえるなど、歴代政権によるばらまきがたたって財政難に苦しんできたトルコの社会保険制度ですが、IMFにお尻をたたかれて実現した1999年の改革に続いて、再び大改正が行われようとしています。原因こそ違い、保険財政の破綻はいずれも同じ。かつてトルコ研究を始めたころは、トルコ社会の「途上国的なところ」に関心が向きがちでしたが、日本の社会が抱える問題と重ね合わせて考えるのがおもしろいと思うようになりました。(村上)

本誌に掲載されている論文などの内容や意見は、外部からの投稿を含め、執筆者個人に属し、日本貿易振興機構あるいはアジア経済研究所の公式見解を示すものではありません。

現代の中東 No.41

2006年7月15日発行 ©

定価735円(本体700円)

アジア経済研究所

独立行政法人日本貿易振興機構

編集 『現代の中東』編集委員会
発行 研究支援部

〒261-8545 千葉市美浜区若葉3-2-2

TEL 043-299-9735 FAX 043-299-9736

E-mail : syuppan@ide.go.jp

アメリカ・ブッシュ政権と揺れる中東

福田 安志 編

2006年

1,575 円(本体 1,500 円)

4-258-30002-0

ブッシュ政権によるイラク戦争は
中東地域に何をもたらしたのだろうか。
混乱が続き不安定な中東地域の情勢と、
アメリカの対中東政策およびその背景を
専門家が分析した。



序 章	イラク戦争後の中東と本書	福田 安志
第 1 章	二期目のブッシュ政権とその中東政策	立山 良司
第 2 章	アメリカの世論と中東・イスラーム	西村 陽一
第 3 章	アル＝ジャズィーラ・テレビとアメリカ	渡邊 正晃
第 4 章	中東におけるイスラーム主義運動の現状	ディアア・ラシュワーン
第 5 章	イラク 袋小路に陥るアメリカの対イラク政策	酒井 啓子
第 6 章	パレスチナ・イスラエル ガザ撤退の政治的位相	池田 明史
第 7 章	アフガニスタン 「民主化」の行方	田中浩一郎
第 8 章	イラン 2005年選挙と政治潮流の転換	鈴木 均
第 9 章	シリア・レバノン アメリカの「民主化」要求が強化する「非民主的」体制	青山 弘之
第 10 章	サウジアラビア テロと民主化	福田 安志
第 11 章	トルコ 対米関係と内政	間 寧